

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】平成25年5月9日 (2013.5.9)

【公開番号】特開2012-140899(P2012-140899A)
 【公開日】平成24年7月26日 (2012.7.26)
 【年通号数】公開・登録公報2012-029
 【出願番号】特願2010-294078(P2010-294078)
 【国際特許分類】

F 0 4 D 29/30 (2006.01)

【 F I 】

F 0 4 D 29/30 C

【手続補正書】

【提出日】平成25年3月21日 (2013.3.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 1 】

以上のようにして設定された、基準となる第 2 スプリッタブレード 8 の前縁 8 a を基に、シュラウド側の位置を、図 2 (a)、(c) に示すように、前側フルブレード 5 F 側の負圧面 S b 側に偏らせるように傾斜させる。この傾斜は、図 2 (c) に示すように前側フルブレード 5 F や後側フルブレード 5 R のハブ 3 に対する立設状態より傾斜させる（寝かせる）ものである。また、後縁 8 b のシュラウド側については、周方向等間隔位置に配置される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 6 3 】

さらに、第 2 スプリッタブレード 2 3 の前縁 2 3 a のシュラウド側へ進む翼端漏れ渦は、前側フルブレード 5 F による翼端漏れ渦と、第 1 スプリッタブレードによる翼端漏れ渦とが重なるため、効果的な翼端漏れ渦の回避を行うには、第 2 スプリッタブレード 2 3 の第 1 スプリッタブレード 2 1 側への寄せ量 2 を、第 1 スプリッタブレード 2 1 の前側フルブレード 5 F の負圧面 S b 側への寄せ量 1 より大きくすることが必要だからである。

その他の作用効果については、第 1 実施形態～第 3 実施形態で説明した 2 枚のスプリッタブレードの場合と同様である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 6 5 】

この場合には、前側フルブレード 5 F と第 2 スプリッタブレード 3 3 と第 3 スプリッタブレード 3 5 との間で、前記第 1 実施形態と同様の翼端漏れ渦の関係が生じる。

寄せ量については、第 2 スプリッタブレード 3 3 の前縁 3 3 a のシュラウド側へ進む翼

端漏れ渦は、前側フルブレード 5 F の前縁 5 a によって発生し、第 3 スプリッタブレード 3 5 の前縁 3 5 a のシュラウド側へ進む翼端漏れ渦は、第 2 スプリッタブレード 3 3 の前縁 3 3 a のシュラウド側によって発生する。

第 3 スプリッタブレード 3 5 の前縁 3 5 a の寄せ量 2 は、第 2 スプリッタブレード 3 3 の寄せ量 1 より大きく設定されるとよい。

なお、第 1 スプリッタブレード 3 1 については、翼端漏れ渦の影響がないため、前縁 3 1 a の偏る設定は行われず、標準的に前後のフルブレード 5 F、5 R 間の 3 等分位置に配置されている。

作用効果については、第 1 実施形態～第 3 実施形態で説明した 2 枚のスプリッタブレードの場合と同様のことが言える。

—